

# 妖精王国の物語

## あらすじ

ここではないどこか、妖精たちが平和に暮らす、妖精王国という場所がありました。しかしある時、その平和な国に闇色の魔王が現れました。そして、こう言ったのです。「この王国を闇に染めよう。闇こそが美しく、心穏やかなものなのだから」

その日から、妖精王国は徐々に闇色に染まってゆきました。闇からは恐ろしい闇色の獣が生まれ、次々と妖精の村を襲っていきました。何人もの妖精騎士が闇色の魔王を倒そうと旅立ちましたが、誰一人として戻ってはきませんでした。

妖精王は最後の希望として、最果ての井戸から、灯火の妖精を人間界へと向かわせました。

灯火の妖精は無事に人間界へたどり着きましたが、大人には誰も彼女の事が見えませんでした。力尽きそうになった灯火の妖精を助けたのは、優しい心をもつ五人の子供たちでした。

灯火の妖精は、彼ら五人を妖精王国へと導きました。五人の子供は妖精王国へと辿りつき闇の獣を退治しました。子供たちは人の心が持つ光の力で闇を退ける事ができたのです。

しかし、闇色の魔王も子供たちの来訪に気がついていました。闇色の魔王は恐ろしい闇の騎士を向かわせました。闇の騎士は倒しても倒しても復活してくる、本当に恐ろしくて邪悪な敵でした。

けれど、恐ろしい敵を前にしても子供たちは決してくじけませんでした。子供たちは王家の谷にある妖精族の秘宝を手にいれついに闇の騎士を倒したのです。

闇の騎士を倒した子供たちは最後の戦いへと向かいます。闇の塔への道のりは長く険しいものでしたが、とうとう魔王のもとへとたどり着きました。闇色の魔王は恐ろしい魔法をたくさん使って子供たちを苦しめます。けれど、子供たちは知恵と力と信じる心でそれを退けました。長い戦いの末に闇色の魔王は倒れました。

妖精王国には平和が戻ったのです。五人の子供は人間界へと帰っていきました。妖精王は英雄として子供たちの名を残すため、彼らの像を建てました。彼らの名は勇気と平和の象徴として永遠に語り継がれたのです。めでたしめでたし